

東京国立 博物館 ニュース

今号の名品 「文殊菩薩立像」



特別展&特別企画 Information

- 「日本書紀成立1300年 特別展 出雲と大和」
- 「ユネスコ無形文化遺産 体感!日本の伝統芸能
特別展
—— 歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界 ——」
- 「特別展 法隆寺金堂壁画と百済観音」
- 「特別展 きもの KIMONO」…… 2
- 「博物館でお花見を」…… 4
- 「特集 おひなさまと日本の人形」
- 「特集 東京国立博物館
コレクションの保存と修理」…… 5
- 「Special Feature 文化財防災
ネットワーク推進事業」…… 6

総合文化展 Pick Up!

- (本館/東洋館/平成館/法隆寺宝物館/
黒田記念館) …… 7~11
- トーハクの調査研究⑥ …… 9
- みどりのライオン(教育普及事業) …… 12
- 「博物館でお花見を」関連イベント …… 13
- イベント&インフォメーション …… 14~15
- 2020年2月-3月の展示・催し物 …… 16

3ページに
掲載してるほ!



ユネスコ無形文化遺産
特別展

「体感！日本の伝統芸能」
—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—

伝統芸能の美と技を体感

本展は、ユネスコ無形文化遺産に登録された、日本を代表する伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊—を総合的に楽しみたいだけの体験型の展示会です。エントランスでは、桜の下で舞い踊る人々が描かれた17世紀の国宝「花下遊楽図屏風」の高精細複製品を中心に幻想的な空間を創り出し、皆様を芸能の世界へと誘います。展示室では各芸能の舞台を再現し、公演で使用する衣裳、楽器、小道具などを展示。デモンストレーションやトークなどを定期的に行い、国立劇場等の貴重な公演映像も上映するなど、芸能の魅力をダイジェストでお届けします。また、歌舞伎コーナーではデジタルアートで隈取を体験できます。

5つの伝統芸能の世界をまるごと体感できる史上初の展示会を、ぜひお楽しみください。



(公演時の写真)
文楽「本朝廿四孝」
奥庭狐火の段 八重垣姫
愛しい人を救うため、白狐の霊力を借りて、凍りついた湖を渡る八重垣姫。本展では、この場面の舞台を再現します

観覧料は、展示会ウェブサイトまたはチラシをご覧ください／主催：文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、文化財活用センター、読売新聞社／展示会公式サイト <https://tsumugu.yomiuri.co.jp/dentou2020/>

特別展

「きもの KIMONO」

きものみる、時代と流行の移ろい

日本の美意識を色と模様を表した「きもの」は、800年以上を生き抜き、今なお新たなファッション・シーンを繰り広げる、現代に生きる日本文化の象徴です。本展では、各時代に流行したきもの数々を、モードを描いた絵画とともに展示し、200件余りの作品を通して壮大な歴史絵巻を繰り広げます。

(小山弓弦葉)



振袖 紅紋縮緬地東熨斗模様

江戸時代・18世紀 京都・友禅史会蔵
展示期間：4月14日(火)～5月10日(日)
江戸時代中期に流行した友禅染の逸品

関連事業 事前申込制

記念講演会「きもの文化の歴史と未来を見つめて」

日時：5月9日(土) 13:30～15:00 (13:00開場予定) 講師：小山弓弦葉(当館工芸室長)
会場：平成館大講堂 定員：380名(応募者多数の場合は抽選)
聴講料：無料(ただし本展示会の観覧券が必要。講演会当日以前に使用済の半券でも可。その場合は別途、当日の入館料が必要) 申込方法：往復はがきでお申込みください。「往信用裏面」に、(1)参加者全員(最大2名まで)の氏名・ふりがな、(2)代表者の郵便番号・住所、(3)代表者の電話番号を、「返信用表面」に代表者の郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記までお申込みください。なお、申込はお1人(または1組)につき1通までです。
*1回の申込みで最大2名の申込可。*2名の場合は、それぞれの氏名を必ず明記してください。
申込先：〒104-8011 朝日新聞社文化事業部内「きもの」展講演会事務局 申込締切：3月18日(水)必着

観覧料：一般1,700円(1,500円/1,400円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円)、*()内は前売/20名以上の団体料金。前売券は4月13日(月)まで、展示会公式サイト等で販売／展示会公式サイト <https://kimonoten2020.exhibit.jp/>

日本書紀成立1300年
特別展

「出雲と大和」

振り向きざまの表情が美しい、
出雲の見返り美鹿

鹿の角は毎年春に生え、夏秋にかけて育ち、冬にはとれて落ちるので、稲などの植物の生育と重なる面があります。そのため弥生時代の鹿は、農耕に関わる神聖な動物として、銅鐸などによく描かれました。一方で、古墳時代になると王(首長)の権力を示す狩猟の場面に、鹿は登場します。鹿を山の世界の象徴として捉え、幅広い世界に王の力が及んでいたことを狩猟によって示したかったのかもしれませんが。

本作品は、これからよからぬことが起きる気配を感じて、振り向き、耳をピンと立て慌てている一瞬を写實的にとらえています。(河野正訓)



(部分)
●植輪 見返りの鹿
古墳時代・5～6世紀
島根県松江市平所遺跡出土
島根県教育委員会蔵
立派な角は、取り外し可能です

観覧料：一般1,600円(1,300円)、大学生1,200円(900円)、高校生900円(600円)、*()内は20名以上の団体料金／展示会公式サイト <https://izumo-yamato2020.jp/>

特別展

「法隆寺金堂壁画
と百済観音」

在りし日の金堂壁画をみた
画家たちの眼の記憶

昭和24年(1949)1月26日の火災によって焼損した法隆寺金堂壁画は、今も寺内の収蔵庫に大切に保管されています。原本ではかつての色彩はほぼ失われてしまいましたが、今回展示する桜井香雲、鈴木空如、入江波光ら、数々の画家が明治時代から昭和時代にかけて写した模本が、在りし日の感容を伝えてくれます。現在の金堂内を荘厳するのは、焼損前の壁画を間近に見た経験のある画家による再現壁画です。本展では、様々な立場と使命で壁画模写に挑んだ画家たちの物語もお伝えします。(瀬谷愛)



法隆寺金堂壁画(再現壁画)
第12号壁 十一面観音菩薩像

前田青邨(ほか筆) 昭和43年(1968)
法隆寺蔵 写真:便利堂
展示期間：4月14日(火)～5月10日(日)

前田青邨は第12号壁の模写のあたり、鈴木空如の模本を鎌倉の自宅へ借りて、細部を学びました

観覧料：一般1,200円(1,100円)、大学生600円(500円)、高校生400円(300円)、*()内は前売および20名以上の団体料金 *前売券は3月12日(木)まで、展示会公式サイト等で販売／展示会公式サイト <https://horyujikondo2020.jp/>

今号の名品

2020年2月-3月号

もんじゅ ぼ さつりゅうぞう

文殊菩薩立像

2月26日(水)~4月19日(日)

本館11室

5つの髻と鮮やかな衣、可愛らしい知恵の象徴がみる強きまなざし

高さ40センチほどの可愛らしい姿の文殊菩薩立像です。作風から鎌倉時代・13世紀につくられたと考えられます。文殊菩薩は主に知恵を司る仏として信仰されています。この知恵は、ときに子どもが持つ純粹無垢な性格にたとえられ、本像のように子どもものような姿で表されることがあります。頭をご覧ください。髪を結んだお団子のような髪型を髻もどりといいますが、複数の髻があるのは密教からきたスタイルで、5つ結んだ文殊菩薩を「五髻文殊」と呼びます。現在は失われていますが、左右の手はそれぞれ何かを持つつきをし、他の作例から考えると、左手にはお経(または蓮の茎)を、右手には剣を持っていたと考えられます。お経は釈迦の教えを記し

た仏教の知恵そのもの、剣はその鋭さゆえ知恵の象徴とされています。本像は、ひとつの木材から頭と体の中心部を彫り出した構造です。木材を一度縦に割り、干割れを防ぐため内側の木を削りとりて再び矧はぎ合わせる(接合する)、割矧造わりはぎぞうという技法が用いられています。鎌倉時代には、ふたつ以上の材で中心部を構成する寄木造よせぎぞうが主流ですが、本像のような小さな像であれば、ひとつの木材からつくるほうが効率がよいのです。

また、目は玉眼たまぐかんという技法が用いられています。この技法は、なかから水晶をあてることで人間の目のような輝きを見せ、鎌倉時代以降の仏像に多く用いられました。

きゅつとひきしまった愛らしい口元ながら、目尻がやや上がったきりつとした表情には、純粹さと聡明さの両方が感じられます。体の肉づきは弾力があるような柔らかみを帯び、下半身の衣のひだは細かく鋭く刻まれ、優れた表現が認められます。

顔や体は現在、下地のきれいな白色がみえています。その上に塗られた金が鼻先や胸のあたりなどにわずかに残ります。つくられた当時は白みのある金色だったことでしょう。また、赤色や緑色に彩られた鮮やかな衣には、糸のように細く切った金箔で美しい蓮華の文様を全面に表しています。



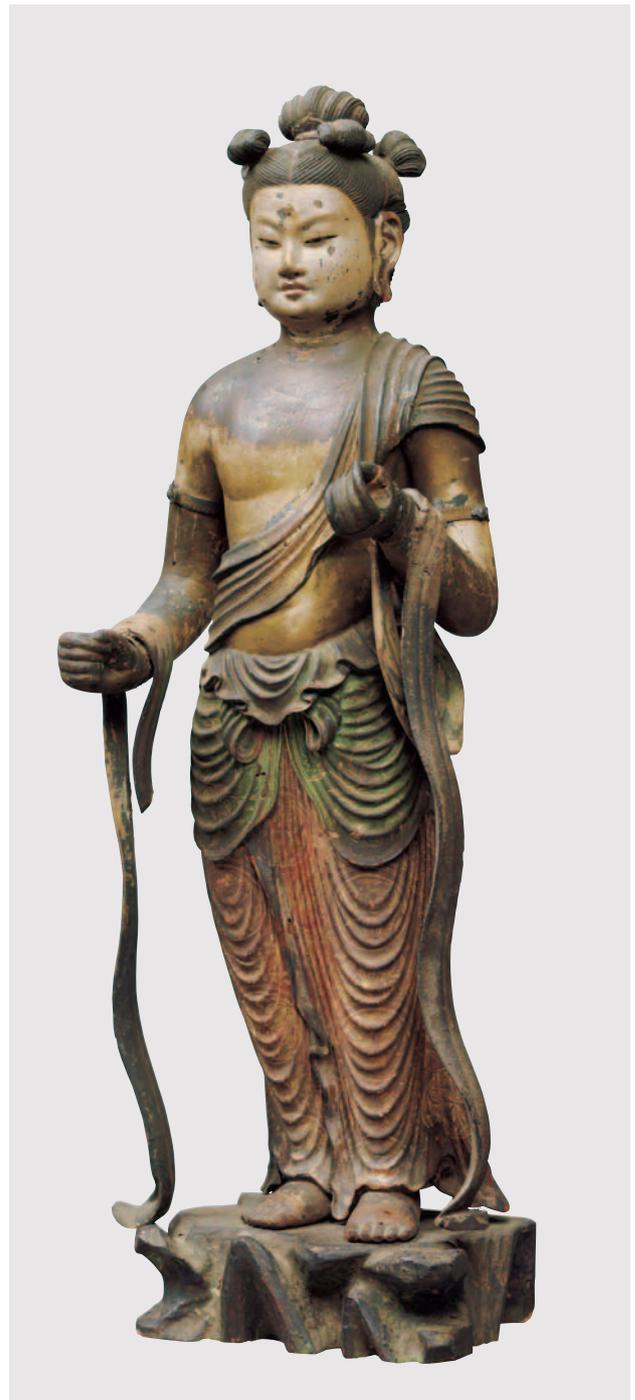
像底

制作当時の金が残る足裏。下地に塗った白色の彩色によって清らかに輝いています



裙背面

糸のように細い金箔を貼りつけてつくられた文様。技術の高さがうかがわれます



文殊菩薩立像

鎌倉時代・13世紀

愛らしい容姿ながら、端正な顔立ちと凛とした佇まいはまさに知恵の仏です



10室

満開の桜に
秘められた恋模様

✿ 小袖

しろりんずじわかまつさらまくもよう
白綸子地若松桜幕模様

江戸時代・18世紀
展示期間：2月26日(水)～4月19日(日)

満開の桜に幔幕がかかる模様は
「源氏物語」「花宴」巻を想起
させます

8室

緻密な細工で花を咲かせる

✿ 瓢形酒入

船田一琴作 江戸時代・天保14年(1843)

展示期間：1月28日(火)～4月19日(日)

銀、銅、銀と銅の合金など、多彩な金属でつくった酒入。桜の花は、銅を立体的に彫り、鍍金したものを象嵌しています



8室

洗練された構図と
彩りに注目

✿ 色絵桜樹図皿

鍋島 江戸時代・18世紀

展示期間：1月28日(火)～4月19日(日)

円形に沿って枝が巡る構図で、桜が器面いっぱいに爛漫と咲いています



博物館でお花見

3月10日(火)～4月5日(日)

令和になり初めて桜の季節がやってきました。

トーハク春の恒例企画、「博物館でお花見を」を今年も開催します。

本館の各展示室では、桜をモチーフにしたさまざまな日本美術の名品が咲き誇ります。

また、本館北側にある庭園では約10種類の桜をお楽しみいただけます。

さらに、イベントも盛りだくさん！トーハクでしか味わえない、

特別なお花見をどうぞご堪能ください。

名品が咲き誇る！ トーハク本館はお花見日和

「博物館でお花見を」
関連イベントは13ページ、
春の庭園開放は14ページを
見てほ！



3月30日(月)は
特別開館日です！



7室

桜の下で風流に歌詠み

✿ 観桜図屏風

住吉具慶筆 江戸時代・17世紀

西脇健治氏寄贈

展示期間：3月24日(火)～4月19日(日)

「伊勢物語」より、桜を讀え歌を
詠む惟喬親王と在原業平らを描き
ます



工芸の粋が詰まった、麗しき人形たち

特集 おひなさまと 日本の人形

本館 14室
2月26日(水)
3月22日(日)

当館春の恒例行事となった雛祭りの展示。今回は雛人形や衣裳人形の数々とともに、江戸時代に江戸の地でつくられた雛飾りに主な焦点を当てます。なかでも前川家伝来の雛飾りは、安政7年(1860)に誂えられたことが明らかなき基準作。その特徴は、雛人形が京都製であるのに対し、雛道具が江戸の地でつくられたことにあります。きわめて精緻な雛道具の数々は、江戸における雛道具の工芸的な完成を示す好例であり、度重なる天災・人災を切り抜けて現代に伝えられた意義はきわめて大きいといえるでしょう。幕末期の日本が世界に誇った雛飾りの華麗な世界をご覧ください。(三田寛之)

古式ゆかしき、 色鮮やかな紙雛

たぢひな じろぎ えもんがしら
立雛(次郎左衛門頭)
江戸時代・18~19世紀

紙で身体をつくった立雛は、雛人形のなかでも古式作品です



前川家に伝わった 緻密な雛飾りが 一堂に

ひなにんぎょう ひなどうく
雛人形および雛道具

安政7年(1860)ほか
前川富士子氏寄贈

繊細で美しく、そして可愛らしいものを尊ぶ日本の美意識をご覧ください

かけがえのない文化財を次世代へ

特集 東京国立博物館 コレクションの保存と修理

平成館
企画展示室
3月24日(火)
4月26日(日)

貴重な文化財を未来へと伝えていくため、当館保存修復課では日頃から展示・収蔵環境を調査しつつ、科学的な分析調査を取り入れ、必要に応じて作品の修理を行い、作品の状態維持に取り組んでいます。本特集は、そうした保存と修理の成果をご紹介します。恒例企画です。

今回は昨年修理を終えた作品を中心に、華麗な色彩にあふれた「四季花鳥図巻」、鏽の除去によってオリジナルの銀象嵌がよみがえった「単鳳環頭大刀」など全9件の作品を、修理方法や修理工程などをわかりやすく示したパネルとともにご紹介いたします。また会期中は、ギャラリートークなどを開催し、保存と修理の現場に携わる担当者が臨場感にあふれたお話をお伝えします。ぜひこの機会にお楽しみください。(横山梓)

新たな裏打ちで、 折り目も美しく

しなのくにこもろしゅうす
信濃国小諸城図
江戸時代・19世紀

本紙を補強して、元の折りたたまれた地図の形態に復元しました



(部分)

輝きを取り戻した 銀の文様が見どころ

たんほうかんとう たち つば
単鳳環頭大刀(鏽)

古墳時代・6世紀
埼玉県秩父郡皆野町
稲荷塚古墳出土

鏽の除去により、勾玉状の文様22個が表出されました



オリジナルの絵付けが今ここに

こさいじんぶつもんちんちゅうほうこうす
五彩人物文長方合子 中国・景德鎮窯「大明万曆年製」銘
明時代・万暦年間(1573~1620) 横河下枝氏寄贈

鑑賞の妨げとなっていた、古い修理による補彩を除去しました



文化財防災ネットワーク推進事業



文化財防災ネットワーク
ウェブサイト

文化財を守り、未来へ伝えるためには

近年、記録的な豪雨、突風、河川の氾濫、土砂災害等、各地で甚大な被害が相次いでいます。その自然災害は、文化財にも大きな被害をもたらします。人命や生活する上で欠かすことのできない住居、水・光熱や交通等のインフラの復旧が優先ではありますが、被災した文化財を救出することも必要です。そこで文化財防災ネットワーク推進事業がどのような取り組みをしているか、学芸研究部長・田沢裕賀に話を聞きました。また各担当者の取り組みもあわせてご紹介します。

文化財防災ネットワーク推進事業が発足した背景を教えてください。



学芸研究部長 田沢裕賀

田沢 (以下、田) : 2011年3月に発生した東日本大震災後に文化財を救出するため、国立文化財機構をはじめとする13の文化財・美術関係の団体によって「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」が組織され、文化財レスキュー事業が実施されました。その後この救援委員会は2年間の活動に一区切りをつけて解散しましたが、今後発生が予想される自然災害に対する備えをつくらうという意見が出され、**2014年7月に「文化財防災ネットワーク推進事業」**が立ち上がりました。

この事業のとりまとめを行っているのが国立文化財機構ということですね。

田 : そうです。国立文化財機構内に文化財防災ネットワーク推進室が設置されており、当館のほか各施設の担当者が活動をしています。そのとりまとめもしています。

本事業の主な目的は何でしょうか？

田 : 災害発生時にいろいろな組織がばらばらにレスキューに行くと現場は混乱し、情報も錯綜してしまいます。そのようなことにならぬよう、ネットワークをつくって情報を一元的に集め、対応できるような体制づくりをしています。

災害の規模によりますが、何か起きた時に直接被災地に向かうのではなく、どうすべきか情報を集め後方支援するということですね。

田 : そうです。また、それだけではなく、被災文化財の処理・調査・研究をして、その成果に関する情報の発信・普及も行います。当館では、「実際に自然災害が起こった時、防災の体制が整っていれば文化財を守ることができる」と考え、防災のための研究をしています。文化財は箱に入っていれば安全ですが、博物館や美術館の場合、展示をしており、ある意味一番危険な状態ともいえます。地震が起こったときに文化財が倒れないようにするにはどんな展示具(支持具)がいいのか、どのような展示ケースであれば倒れにくいのかも研究をしています。また、展示室だけではなく文化財を保管している収蔵庫の研究もしています。災害に強い博物館にするため、あらゆる研究とともにその情報を構築させ、推進していくことが使命です。

文化財防災ネットワーク推進事業では、シンポジウム、研究会、研修会を開催し、文化財の防災・救援を実践する人材を育てていこうとしています。これらの活動や事業を広く社会に認識してもらうことで、文化財防災の重要性を理解していただくことにつながると感じました。

聞き手 江原香(学芸企画部広報室)



文化財防災マニュアルハンドブック

汚損紙資料のクリーニングの処置例を記しています。水にぬれにくい紙でつくれ、作業用のポケットにも入れられるサイズです

担当者からの報告

「各地の収蔵庫の調査とレスキュー」

美術館や博物館が被災した際、文化財を安全に移動するためには、日常的な文化財の「収蔵や保存」のあり方にも目を向けなければなりません。そのため博物館・美術館の収蔵庫の調査を進めています。具体的には収蔵庫内の収蔵棚や収蔵箱の大きさ、配置、数量、地震などへの安全対策の有無に関する調査を行っています。調査を行うなかで、各機関により収蔵方法は異なり抱える問題は様々であることもわかってきました。文化財が収蔵庫で災害を受けた後、安全に運び出すための時間や必要な人員を事前に把握することは、被災した文化財をいち早く安全な場所に移動する上で必要不可欠と考えています。



収蔵庫での調査

(学芸企画部企画課デザイン室長 矢野賀一)

「情報共有が防災体制のカギ」

当館は、関東甲信越10都県を対象に、文化財に関する防災体制の構築に向けたサポートを行っています。関東甲信越には様々な関係団体がありますが、分野や地域、立場をこえた情報共有の場は見られませんでした。そこで防災をテーマに平時・災害時の団体間の連携を模索することを目的に、2017-18年度に県の文化財行政所管課や博物館・文書館・図書館の協会、資料ネット、建築士会などと会合を開催しました。今年度からは災害対応や先進的な県内・広域連携の事例に学ぶ研究会を開催し、地域へのサポートを継続して行っています。



当館で開催した文化財防災ネットワーク推進事業研究会

(学芸研究部列品管理課登録室 六人部克典)

「地震から展示作品を守るために」

展示ケースや作品の下に設置する免震装置は地震の揺れを軽減するのに効果的な道具として使われています。その大半は1995年に発生した兵庫県南部地震で観測された水平加速度818gal(*)を100gal程度に減衰させる能力が基本仕様となっています。ところが、以降に発生した複数の地震では1,000galを超える地震波が連続々と計測されています。想定外の地震動を受けた免震装置上ではどのような揺れ方をするのか、作品を守るためにはどのような対策をすべきなのかの危険性を見極めて、展示作品へ適切な防災処置を施せるように、現在研究を進めています。



地震動を再現する装置を使って地震発生時に免震装置がどのように作動するのかを検証しています

(学芸研究部保存修復課環境保存室長 和田浩)

* gal:地震の揺れの強さを表すときに用いる加速度の単位です。1秒間に1センチメートルの割合でスピードが増していく状態をさします。

「地域で守り継ぐ文化財」

永年にわたり、地域の人々によって守り継がれてきた文化財が各地に残されています。指定・未指定を問わず、これらの文化財を災害から守るためのひとつとして、2018年度から各市町村で文化財保護事務に従事している行政担当者への聞き取り調査を進めており、併せて情報共有のための会合も開催しています。文化財が災害を潜り抜けて後世に継承されるためには、行政や文化財所有者のみならず、地域コミュニティによる支援や協力も必要不可欠になります。(文化財防災ネットワーク推進室 黄川田翔)



市町村での調査活動

Pick up!

本館

郷愁を誘う、滋味豊かな景色

秋冬山水図屏風

2月11日(火・祝)〜3月22日(日)

7室 屏風と襖絵―安土桃山〜江戸



(右隻)

秋冬山水図屏風

秋山応挙筆
江戸時代・18世紀

水墨による柔らかな表現で、しみじみとした秋冬の景色を描いています

を描きこんだ想像上の風景を、誰もが身近に感じる日本の風景の实在感をもって表現しています。(大橋美織)

月に照らされた水辺の風景と雪におおわれた山村の風景。どちらも水墨による柔らかな表現で描かれた本作品は、江戸時代中期に京都で活躍した画家、円山応挙による作品です。驢馬で山道をゆく人物は中国風に描かれています。墨の濃淡で表現されたしみじみとした風景は、私たちにもどこか見覚えがあるような日本の風景を思い起こさせます。応挙は誰がみてもわかるようなリアリティのある作品を描こうとした画家でした。本作では、中国の人物

本館

透かしが叶えた、桜の広がり

色絵桜樹図透鉢

4月19日(日)

8室 暮らしの調度―安土桃山・江戸



色絵桜樹図透鉢

仁阿弥道八作 江戸時代・19世紀

少し斜め上から鉢の内外を同時に眺めると、より満開の桜を感じられます

江戸時代後期に活躍した京焼の陶工・仁阿弥道八(1783〜1855)による深鉢です。鉢の内と外に白泥と赤、さらには青を用いて桜が描かれ、点描のような筆致で表されているのが特徴です。口縁に近い、鉢の上部には随所に透かしの表現が用いられていますが、この透かし穴によって鉢の内と外がゆるやかにつながって、桜の空間に広がりが生み出されています。桜の透鉢の作例は乾山焼のもとになった作品があり(MOA美術館蔵)、道八はこれを模したものと考えられます。緑でさっと塗られた地面も清々しく、満開の桜の間を吹いていく風までも感じられるような作品です。(横山梓)

本館

観客の目を引く工夫が随所に

振袖

紅縮緬地桜流水模様

2月26日(水)〜4月19日(日)

9室 能と歌舞伎



振袖 紅縮緬地桜流水模様

坂東三津江所用 江戸時代・19世紀

高木キヨウ氏寄贈

「かぶく」とは「目立つ」ということ。いかに目立つかが歌舞伎衣装の見所

大奥で歌舞伎を演じたお狂言師、坂東三津江が「本朝廿四孝」という演目に登場する八重垣姫の役に使ったと伝えられる衣装です。華やかな紅色に染められた振袖は「赤姫」と呼ばれるようにお姫様役の定番となっています。歌舞伎衣装の一番の特徴は、大振りな立体的な刺繍にあります。この振袖では、木の幹の部分に太い撚糸を用いてごっこごつした質感を出しています。袖口にある「ささげ」と呼ばれる紐飾りには固く太い金糸の組紐が用いられ、たいそう大げさにみえますが、歌舞伎の舞台ではこのくらいの派手さがちょうどよかったのかもしれない。(小山弓菘葉)

本館

仏にささげる燈火を籠める

重文 銅梅竹透釣燈籠

3月10日(火)〜6月14日(日)

13室 金工



銅梅竹透釣燈籠

室町時代・天文19年(1550)

千葉市中央区千葉寺町千葉寺址出土

畑野勇治郎氏寄贈

釣燈籠のなかではもっとも有名!? かつて切手のデザインにも採用されました

火・花・香は、古来仏にささげる3大要素とされてきました。私たちもよく知る石燈籠は、6世紀の仏教伝来とともに入ってきたようです。対して軒につる形式の「釣燈籠」は、平安時代に登場します。古い釣燈籠は金属製が多く、その時々金工技術が用いられました。この釣燈籠は青銅鑄造。銘文があり、千葉寺の愛染院というお堂の燈籠であったことがわかります。鑄造品らしい、どっしりとした姿とうらはらに、デザイン化された透かしの文様はとても軽やかです。実はこれと同じ形と文様の釣燈籠がもう2点あり、いずれも現在の栃木県佐野市、天明で鑄造されたとみられます。(伊藤信二)

総合文化展  **Pick up!**



平成館

古代建築を飾った壮麗な瓦

鴟尾

通年
考古展示室



鴟尾

大阪府柏原市 鳥坂寺跡(高井田廃寺) 出土
飛鳥～奈良時代・7～8世紀
古代の寺院や宮殿の屋根飾りで、大棟の両端
に対して使われました

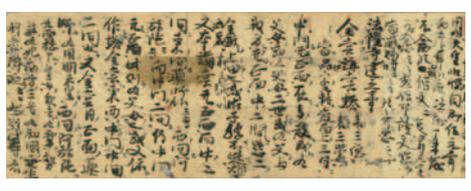
鴟尾とは古代寺院のお堂や宮殿で瓦屋根のてっぺん、大棟の両端に設置された大型の飾りです。脊形とも呼ばれ、瓦のほか石や金属でもつくられました。側面のたくさんの段々は、もともと鴟尾が生まれた中国で板状の瓦を積み重ねて屋根の飾りとしていたことの名残とされます。背面の蓮の花の文様は屋根の軒を飾る瓦と同じで、屋根全体でデザインの統一が図られていたようです。ちなみに、お城の鯨に似ていますが、鯨は日本で鴟尾が廃れた後、鎌倉時代に改めて中国から原形が伝わり安土桃山時代以降に普及したもので、時代が全く異なります。(山本亮)

法隆寺宝物館

法隆寺の歴史を今に伝える書

重文 古今目録抄
(聖徳太子伝私記)下巻

2月26日(水)～4月12日(日)
第6室 書跡—古今目録抄と法隆寺の古記録—



(部分)

◎古今目録抄(聖徳太子伝私記)下巻
顕真筆 鎌倉時代・13世紀
鎌倉時代にまとめられた、法隆寺とその寺宝の歴史を語る貴重な史料
※下巻のみ展示

く記してあります。古代から中世前期にかけての法隆寺の歴史と、現在に伝わる文化財の伝来を知るうえでの重要な史料です。
(田良島哲)

鎌倉時代中期の僧顕真が法隆寺の歴史や当時の状況を記録した著作で、上下二帖の折本から成ります。上巻では聖徳太子が法隆寺を創建したとされるいきさつ、法隆寺の数々の建物、寺宝の来歴や年中行事の次第などを述べます。下巻も引き続き建物や仏像の由緒を過去の書物を多く引用しながら示すとともに、仏像や仏具の銘文、法隆寺の末寺・末社の歴史や聖徳太子に関する伝説なども詳しく

黒田記念館

若き日の憧れが凝縮した1枚

祈禱

3月15日(日)
黒田記念室



祈禱 黒田清輝筆 明治22年(1889)
模写やデッサンで身につけた写実力がわかる初期の逸品です

手を組み、静かに祈りを捧げる女性が描かれたこの作品は、フランス留学中の黒田清輝によって制作されました。この時期の黒田は、レンブラントとミレーに感銘を受け、彼らの作品の模写に励みました。本作も、色調や筆致、絵の背景の処理からはレンブラント、祈りを捧げる女性のポーズからはミレーの代表作、「晩鐘」からの影響が指摘されています。
祈りの静謐な雰囲気と同時に、憧れの画家たちに近づこうとする、若き黒田の熱意が感じられる作品です。
(東京文化財研究所・野城今日子)

トーハクの調査研究 ⑥

銀がある!!
大興奮の調査

博物館の重要な使命のひとつである「調査研究」。その一端をご紹介します。

平安時代12世紀の仏画は、極度に洗練された美意識とそれを具体化する繊細緻密で高度な技術によって成り立っているため、肉眼観察だけでは充分な理解は難しいものです。当館と東京文化財研究所は、平安仏画の美しさをより深く理解するため、各種光学調査の共同研究を行っています。

これまでの調査で特筆すべきは、国宝の普賢菩薩像と孔雀明王像の背景から銀が検出されたこと。12世紀仏画の多くは濃褐色の無地の背景ですが、色材や表現の実態は明らかではなく、ましてや銀の使用は想定外のため、さまざまな議論を呼ぶ結果でした。そして最近、准胝仏母像という平安仏画の背景からも、彩色表現としての銀の使用例を補強する計測結果が得られました。議論を呼ぶ事実の発見に立ち会えることは研究者冥利に尽きるといえます。今後のさらなる調査研究が楽しみです。(沖松健次郎)



蛍光X線で計測中。Ag(銀)が出るたびに興奮がとまりませんでした

3月 展示案内

- 1-1: 日本美術のあけぼの一縄文・弥生・古墳
- 1-2: 仏教の興隆—飛鳥・奈良
- 2: 国宝室
- 3-1: 仏教の美術—平安～室町
- 3-2: 宮廷の美術—平安～室町
- 3-3: 禅と水墨画—鎌倉～室町
- 4: 茶の美術
- 5-6: 武士の装い—平安～江戸
- 7: 屏風と襖絵—安土桃山・江戸
- 8-1: 暮らしの調度—安土桃山・江戸
- 8-2: 書画の展開—安土桃山・江戸
- 9: 能と歌舞伎
- 10: 浮世絵と衣装—江戸
- 11: 彫刻
- 12: 漆工
- 13-1: 金工
- 13-2: 刀剣
- 13-3: 陶磁
- 14: 特集
- 15: 歴史の記録
- 16: アイヌと琉球
- (17: 保存と修理)
- 18: 近代の美術

2/4火-3/15日

3-2

○融通念仏縁起絵巻断簡

南北朝時代・14世紀

融通念仏が動物たちにも広まったという場面。鷹と鼠が描かれています



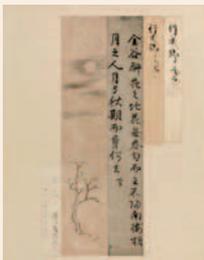
(部分)

3/17火-4/26日

○手鑑「月台」

奈良～鎌倉時代・8～14世紀

冷泉為恭が月と桜の絵を添えた「法輪寺切」です



(部分)

2/4火-3/15日

3-3

○山水図屏風「秀峰」印 室町時代・16世紀

「瀟湘八景」にちなんだ山水図。うねるような山の表現がじつに個性的です



(部分)

3/17火-4/26日

○山水図

岳翁藏丘筆
天隠龍澤賛
室町時代・15世紀
松永安左工門氏寄贈



本館 2F: 1~10

-6/21日

1-1

○六鈴鏡

古墳時代・5～6世紀
茨城県筑西市上野古墳出土
周囲に鈴をつけた鏡で、埴輪の巫女(右画像)が腰に下げています



○埴輪 腰かける巫女

古墳時代・6世紀 群馬県大泉町古海出土



2/4火-3/15日

1-2

○大般若経 卷第四百六十五断簡

奈良時代: 神亀5年(728)
奈良時代の悲劇の皇子・長屋王が発願した大般若経の断簡です



(部分)

-4/26日

○如来立像

飛鳥時代・7世紀
法隆寺献納宝物



2/11火-2/24日

2

○慧文大師像

平安時代・11世紀
兵庫・一乗寺蔵

おらかな造形と、衣のグラデーションの美しさが印象的な祖師像の名品のひとつです



2/26水-3/8日

○十二天像(風天)

平安時代・9世紀
奈良・西大寺蔵
現存最古の十二天画像の作例。画面いっぱいに描かれた気宇の大きな造形が見どころです



2/11火-3/22日

7

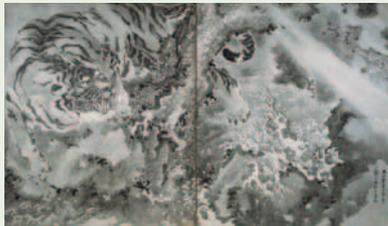
○秋冬山水図屏風

円山応挙筆 江戸時代・18世紀 (→7ページ)



(右隻)

○虎に波図屏風 岸駒筆 江戸時代・文政6年(1823)
荒波に向かい咆哮する虎。写生を重んじ虎を得意とした岸駒の真骨頂です



(右隻)

-2/24日

4

○文琳茶入 銘 宇治

中国 南宋～元時代・13世紀
松永安左工門氏寄贈

2/26水-5/17日

○黒染茶碗 銘 かのこ斑

一入作 江戸時代・17世紀
広田松繁氏寄贈

銘の由来でもある、黒のなかに浮かび上がる朱色の斑模様が見どころです



2/11火-4/26日

5-6

○黒章肩取威成胴丸

室町時代・15世紀

15世紀のよろい。札という小さな板をつくり合わせる絹糸と章の配色が見事です



2/18火-5/10日

○短刀 相州行光

鎌倉時代・14世紀

行光は14世紀前半の神奈川県の刀工で、在銘作品が極めて少ないです



2/4火-3/15日

3-1

○仏涅槃図

平安時代・12世紀
横たわる釈迦如来の白い衣に施された細密華麗な裁金文様が優美な輝きを表現しています



3/17火-4/26日

○釈迦三尊十羅刹女像

南北朝時代・14世紀
釈迦如来と法華経信者を守護する十羅刹女とを描いています。緻密な描写が見どころです



-4/19日

8-1

○瓢形酒入 船田一琴作

江戸時代・天保14年(1843)
(→4ページ)



○吉野宮蒔絵書棚

江戸時代・18世紀
濃密な蒔絵に珊瑚、繊細な彫金に七宝など、細部に見どころが光ります



本館展

[2月~]

3/10(火)-6/7(日)

13-2

◎太刀 長船長光 鎌倉時代・13世紀

13世紀に岡山県東南部で生まれた長船派は、中世において日本最大の刀剣の流派として栄えました。長光は一派のなかでも名工として著名です



◎太刀 綾小路定利

鎌倉時代・13世紀 渡邊誠一郎氏寄贈



3/10(火)-6/14(日)

13-3

◎色絵牡丹図水指

仁清、「仁清」印 江戸時代・17世紀
4つの窓絵の中に牡丹が描かれます。金銀も用いられた優美な水指です



3/10(火)-9/6(日)

◎染付山水図大鉢

伊万里 江戸時代・17世紀

2/26(水)-3/22(日)

14

◎立籠 (次郎左衛門頭)

江戸時代・18~19世紀
(→5ページ)



(部分)



◎押絵籠屏風

江戸時代・万延元年(1860)
切り抜いた絹のパーツを組み合わせて人物を表わした珍しい屏風です

2/18(火)-3/15(日)

10

◎桃花に小禽 歌川広重筆 江戸時代・19世紀

柔らかに咲く桃の花。そこに小鳥がとまりざえずる様子を詩情豊かに描いています



3/17(火)-4/12(日)

◎隅田川の花見船圖 歌川国政筆 江戸時代・19世紀

舟を浮かべて遊ぶ女性たちと古原へ向かう遊客。遠くには三囲神社も描かれます



-2/24(月)(休)

10

◎打掛 縹紗綾地竹鶴模様

江戸時代・18世紀
美麗な友禅染と刺繍をあしらった、婚礼衣装あるいは若い女性の晴れ着です

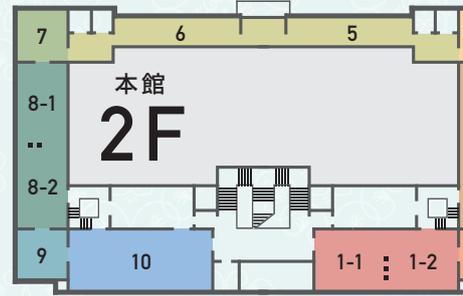


2/26(水)-4/19(日)

◎小袖 白縹子地若松桜幕模様

江戸時代・18世紀
(→4ページ)

本館 1F: 11~16, 18



-2/24(月)(休)

15

◎貝譜 江戸時代・19世紀



2/26(水)-4/19(日)

◎江戸城本丸表向総絵図 江戸時代・19世紀
弘化2年(1845)完成の江戸城本丸御殿の平面図です

-4/12(日)

16

◎煙草入

樺太アイヌ 19世紀
徳川頼貞氏寄贈
アイヌの人々の生活に欠かせない煙草を携行するための道具です



◎アンピン(緑釉把手付水注)

沖縄本島 壺屋焼 第二尚氏時代・18世紀末~19世紀

-3/22(日)

12

◎獅子螺鈿鞍

平安~鎌倉時代・12~13世紀
嘉納治五郎氏寄贈



◎古墨意匠硯箱

伝小川破笠作 江戸時代・18世紀
クインシー・A・ショー氏寄贈
古墨のひび割れ、欠け落ちた様子まで漆の技術でつくり出しています



2/11(火)(祝)-3/15(日)

18

◎梅と蓮 大智勝観筆 大正9年(1920) 深見吉之助氏寄贈

淡い色の梅や蓮が穏やかな春の風情をかもし出します



(部分)

3/17(火)-4/19(日)

◎嵐山春景

塩川文麟筆 明治6年(1873)
塩川文麟氏寄贈



3/10(火)-6/14(日)

13-1

◎銅梅竹透鈿燈籠

室町時代・天文19年(1550)
千葉市中央区千葉寺町 千葉寺址出土
畑野勇治郎氏寄贈
(→7ページ)



◎金銅灌仏盤

平安時代・12世紀
4月8日の釈迦の誕生日、この容器に仏像を置き水を灌(そそ)いで祝いました



2/11(火)(祝)-3/22(日)

8-2

◎蘭亭曲水図屏風

松村景文筆 江戸時代・19世紀
4世紀、中国東晋の諸名士が蘭亭に集い遊びに興じた場面を描きます



(左隻)



◎絶筆稿本

頼山陽筆 江戸時代・天保3年(1832) 園田里美氏寄贈
病床で死を覚悟した頼山陽が、自らの肖像画賛の文案を、儒者で親友の篠崎小竹に示し、相談した書翰です

2/26(水)-4/19(日)

9

◎振袖 紅縮緬地桜流水模様

坂東三津江所用 江戸時代・19世紀
高木キヨウ氏寄贈
(→7ページ)

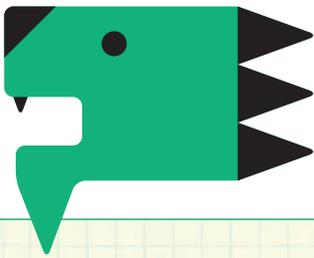


◎襦袢 淡紅縹子地立雛貝桶模様の

坂東三津江所用 江戸時代・19世紀
高木キヨウ氏寄贈

「京鹿子娘道成寺」に用いられた早替り用の襦袢。立雛のアップリケが可愛いらしいです





みどりのライオン

みんなで楽しむ教育スペース
EDUCATION CENTER 教学中心 교육센터

教育普及事業

ART
1

知る楽しみ、学ぶ喜び 講演会・ギャラリートーク・ガイダンス

講演会

連携講演会「文徴明とその時代」

日時：2月8日(土) 13:30~15:00
講師：富田淳(学芸企画部長)、鍋島稲子(台東区立書道博物館主任研究員)
生涯を書画に捧げた文徴明は、芸苑の領袖として君臨し、90歳の長寿を全うしました。生誕550年を記念して、文徴明芸術の核心に迫ります。

月例講演会「東アジアの宮廷文化」

日時：2月22日(土) 13:30~15:00
講師：猪熊兼樹(特別展室長)
かつて東アジア(日本・中国・韓国・ベトナム・琉球)地域には同様な規格の宮廷がありました。それぞれの宮廷の共通点や相違点をご紹介します。

月例講演会「装飾古墳の人類史」

日時：3月7日(土) 13:30~15:00
講師：河野一隆(調査研究課長)
筑紫君磐井の乱の意味を再考し、九州のローカルな古墳文化とされてきた装飾古墳を、洞窟壁画と共に原始絵画の人類史という観点から捉え直します。

*会場は平成館大講堂、定員380名、聴講無料(ただし当日の入館料が必要)
*開場は開始の30分前(予定)

ギャラリートーク

文徴明と明時代の書画

日時：2月4日(火) 14:00~14:30 東洋館8室
講師：六人部克典(登録室研究員)
文徴明芸術と、彼が活躍した明時代の文人書画の魅力に迫ります。

帝室技芸員 三代清風与平

日時：2月18日(火) 14:00~14:30 本館18室
講師：今井敦(博物館情報課長)
陶磁の分野で初めて帝室技芸員に任命された三代清風与平の事績を通じて、美術工芸としての陶芸の成り立ちをたどります。

江戸の書にみる人情

日時：2月28日(金) 18:30~19:00 本館8室
講師：丸山猶計(登録室長)
親子や師弟など、深い縁で結ばれた人々の書状や和歌などをご紹介します。筆跡に潜む人情を感じていただけたら幸いです。

X線CT装置の保存修理への活用

*関連展示ページ：本誌5ページ
日時：4月7日(火) 14:00~14:30
本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)
講師：宮田将寛(調査分析室専門職)
当館のX線CT装置の活用事例をご紹介します。目視では確認することのできない文化財の内部を調査し、保存・修理に貢献しています。

東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートーク

ねのひまきえだな こうえつ
「子日蒔絵棚」にみる光悦の意匠 場所：本館12室
*各回15:30~15:50

日程：2月5日(水)、21日(金)、26日(水)、3月5日(木)、10日(火)
解説：泉山真悠(美術研究科芸術学専攻 工芸史研究室)
「子日蒔絵棚」を通して、本阿弥光悦の蒔絵の魅力をご紹介します。

「十二月花鳥図屏風」の魅力 場所：本館7室

日程：2月1日(土)、6日(木)、9日(日)
解説：内田夏帆(美術研究科芸術学専攻 日本・東洋美術史研究室)
屏風という形式を意識しながら、四季折々の景物が作り出す空間についてお話しします。

青木繁が描きだした神話画「日本武尊」 場所：本館18室

日程：2月28日(金)、3月1日(日)、3日(火)、8日(日)、12日(木)
解説：柯輝煌(美術研究科芸術学専攻 日本・東洋美術史研究室)
明治後期の西洋画家・青木繁の「日本武尊」に注目し、神話がどのように描き出されたのかお話しします。

ヴィンチェンツォ・ラグーザの「日本の婦人像」 場所：本館18室

日程：2月13日(木)、18日(火)、20日(木)、27日(木)
解説：小梨貞子(美術研究科芸術学専攻 日本・東洋美術史研究室)
ラグーザの「日本の婦人像」の魅力、明治の時代背景を交えてご紹介します。

雪村の「鷹山水図屏風」の画面構成について 場所：本館3室

日程：2月2日(日)
解説：笹尾梨良(美術研究科芸術学専攻 日本・東洋美術史研究室)
雪村周継が描いた動物や自然の屏風における魅力についてお話しします。

宝慶寺石仏龕のかたちとその意味 場所：東洋館1室

日程：2月4日(火)、8日(土)、12日(水)
解説：中西希(美術研究科芸術学専攻 日本・東洋美術史研究室)
唐時代・8世紀の仏像の魅力について、かたちと圖像の意味を中心にをご紹介します。

宮川香山と明治の「日本」 場所：本館18室

日程：2月14日(金)、16日(日)、19日(水)、23日(日・祝)、3月4日(水)、7日(土)
解説：橋詰果歩(美術研究科芸術学専攻 工芸史研究室)
超絶技巧の「榻袖蟹貼付台付鉢」に込められた香山の想いを、明治時代の「日本」を交えながらお話しします。

ART
2

五感を使った美術体験 ワークショップ

事前申込制 [ウェブサイトフォーム]

ワークショップ

ひいな遊びー立雛を作ろう！ー

ひなまつりの伝統は、平安時代頃から行われた「ひいな遊び」にさかのぼります。このワークショップでは、当館所蔵の「立雛」をモデルに、頭をつくって顔を描き、きものにする料紙(文様のある和紙)を摺って、自分オリジナルのお雛さまをつくります。

日時：2月29日(土) ①10:00~12:30 ②14:00~16:30

会場：本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)

対象：①小学生~中学生とその保護者 ②高校生以上

定員：①10組 ②20名(いずれも応募者多数の場合は抽選)

参加費：無料(ただし、高校生を除く18歳以上70歳未満の方は当日の入館料が必要)

申込方法：当館ウェブサイトのフォームからお申込みください。

*①は1組5名まで(ただし、1組で1対制作)、②は最大2名まで申込可

申込締切：①②ともに2月12日(水)必着



古式立雛
江戸時代・17~18世紀
展示期間：2月26日(水)~3月22日(日)
本館14室 *関連展示：本誌5ページ

事前申込プログラムにお申込みいただいた方には、当落に関わらずご連絡します。実施日の3日前までに受講可否の返答がない場合は、通信トラブルの可能性もありますので、各申込先にお電話でお問合せください。TEL：03-3822-1111(代) / 各種催し物にご応募の際に提供いただいた個人情報は、当該の目的のみ使用させていただきます。終了後はすみやかに破棄します。/ インターネットからのお申込みができない方は、お電話でお問合せください。/ ◆は「ヒアリンググループ」対応、🗣️は「UDトーク」対応のイベントです。



*関連展示:本誌4ページ

「博物館でお花見を」関連イベント



事前申込み不要です 当日受付イベント

※特記以外はすべて参加無料です(ただし、当日の入館料が必要)

桜セミナー

金銀螺鈿の花づくり

花が盛りの時期なのに、金でできた花に魅力があるでしょうか? もちろん、あるのです。漆と金が生み出す季節の楽しみ方をご紹介します。
日 時: 4月4日(土) 13:30~15:00 (開場13:00予定) 平成館大講堂
講 師: 福島修(工芸室研究員)
*定員380名

桜ギャラリートーク

場所: 本館地下 みどりのライオン (教育普及スペース)

器に咲く桜

日 時: 3月17日(火) 14:00~14:30
講 師: 今井敦(博物館情報課長)
陶磁器に表された桜について解説します。

仏教絵画に描かれた桜

日 時: 3月24日(火) 14:00~14:30
講 師: 沖松健次郎(絵画・彫刻室長)
風景描写を伴う仏教絵画には桜も描かれます。今回は、蓮華だけではなく、仏教絵画の中の花についてお話します。

桜観賞ガイド

場所: 本館地下 みどりのライオン (教育普及スペース)

日 時: 3月31日(火) 14:00~14:30
講 師: 阿部楓子(教育講座室アソシエイトフェロー)
桜作品の見どころをダイジェストでご紹介します。

イベント等

ボランティアによるガイドツアー

桜にちなんだ作品や構内の桜など、さまざまなテーマで「トーハクの桜」をご案内します。

*ガイドツアーの種類と日時は本誌16ページ(3月分は今号、4月分は次号)、当館ウェブサイトでご確認ください。

東博句会「花見で一句」

桜咲く庭園や桜をモチーフにした作品をテーマに一句詠んでみませんか? ご応募は当館敷地内4か所に設置されたポストまで。入選作品は本誌9-11月号と当館ウェブサイト上发表し、記念品を贈呈します。「博物館でお花見を」期間中毎日受付します。

桜ワークショップ 春らんまん 桜ぬりえ

桜をモチーフにした作品のぬりえに、思い思いに色をつけ、自分だけの春らしい作品をつくりましょう。展示室にある作品の色づかいにも注目してみてください。



日 時: 3月27日(金)~3月31日(火)
各日11:00~16:00 *ぬりえシートがなくなり次第終了
会 場: 本館2階ラウンジ

桜クイズラリー

展示室をめぐって、5つのクイズを解いてください。全て正解した方にオリジナルバッジをプレゼント。「博物館でお花見を」期間中、毎日開催します。バッジは全部で2種類をご用意しています。

*台紙の配布・バッジの引換え場所: 本館エントランス (バッジの引換えは10:00~閉館まで)

各イベントで申込方法が異なります 事前申込制イベント

事前申込制 [往復はがき、ウェブサイトフォーム]

アートスタジオ 桜の根付作り

本館10室と高円宮コレクション室の根付を見学した後、粘土を加工して桜をテーマにオリジナルの根付を制作します。完成作品はお持ち帰りいただけます。

日 時: 3月28日(土) 13:30~15:30
会 場: 本館地下 みどりのライオン (教育普及スペース)
対 象: 高校生以上
定 員: 20名程度 (応募者多数の場合は抽選)
参 加 費: 無料 (ただし、高校生を除く18歳以上70歳未満の方は当日の入館料が必要)
申込方法: 当館ウェブサイトのフォームが往復はがきでお申込みください。
往復はがきの場合は、「往信用裏面」に(1)参加者全員(2名まで)の氏名・ふりがな、(2)参加者全員の郵便番号・住所、(3)代表者の電話番号を、「返信用表面」に代表者の郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、右下記申込先にお送りください。
*1枚のはがきで2名まで申込可
申込締切: 2月25日(火) 必着

事前申込制 [往復はがき]

庭園茶室ツアー そうあん 草庵茶室に入ってみよう!

庭園内にある茶室の見どころについて解説します。通常のガイドツアーでは入らない「六窓庵」「転合庵」の内部までご案内します。

*悪天候の場合は中止することがあります

日 時: 3月19日(木) 11:00~12:00
定 員: 16名 (応募者多数の場合は抽選)
参 加 費: 無料 (ただし、高校生を除く18歳以上70歳未満の方は当日の入館料が必要)
申込方法: 左記「桜の根付作り」の申込方法「往復はがきの場合」の箇所をご覧ください。 *1枚のはがきで2名まで申込可
申込締切: 2月17日(月) 必着

事前申込制 [往復はがき]

応挙館での茶会 おうきょかん 応挙館 桜茶会

庭園の応挙館でのお茶会です。桜と円山応挙の障壁画(複製)を愛でながら、季節のお菓子とともにお茶をお楽しみいただきます
*悪天候の場合は中止することがあります

日 時: 3月29日(日) ①11:00~12:00 ②13:00~14:00 (各回とも同じ内容)
定 員: 各回15名 (応募者多数の場合は抽選)
参 加 費: 500円 (ただし、高校生を除く18歳以上70歳未満の方は、別途当日の入館料が必要)
申込方法: 往復はがきの「往信用裏面」に(1)参加者全員(2名まで)の氏名・ふりがな、(2)参加者全員の郵便番号・住所、(3)代表者の電話番号、(4)希望の回(①②いずれか)、(5)座いすが必要な方はその旨を、「返信用表面」に代表者の郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記申込先にお送りください。
*1枚のはがきで、①②のどちらか一方、2名まで申込可
申込締切: 2月19日(水) 必着

申 込 先: 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館ボランティア室 「3月28日 桜の根付作り」/
「3月19日 草庵茶室」/「3月29日 応挙館桜茶会」係
*1枚のはがきでひとつのイベントの申込のみ
お問合せ: TEL 03-3822-1111 (代) ボランティア室



春の庭園開放

本館北側の庭園・茶室を公開しています(茶室内には入れません)。また、期間中の金曜・土曜日は19:30までライトアップを行います。
 日時:3月10日(火)~4月19日(日) 10:00~16:00
 庭園入口:東洋館レストラン「ゆりの木」脇、または平成館と本館の間
 料金:入館料のみでご覧いただけます。

※お茶室貸出利用時はお茶室を間近でご覧いただけない場合があります。/悪天候により中止になる場合があります。庭園開放中止の場合は、正門の掲示にてお知らせします。/庭園開放期間中、庭園の一部工事を行うため、立入エリアに制限が生じる場合がございます。

東京・春・音楽祭2020

2009年から引き続き「ミュージアム・コンサート 東博でバッハvol.47~51」をお届けします

- ①東博でバッハvol.47 ピアノ・デュオ・タカハシ | レーマン
日時:3月17日(火) 開演19:00(開場18:30)
- ②東博でバッハvol.48 神田寛明(フルート)、北谷直樹(チェンバロ)
日時:3月21日(土) 開演18:00(開場17:30)
- ③東博でバッハvol.49 住谷美帆(サクソフォン)
日時:3月24日(火) 開演19:00(開場18:30)
- ④東博でバッハvol.50 大萩康司(ギター)
日時:4月8日(水) 開演:19:00(開場18:30)
- ⑤東博でバッハvol.51 玉井菜採(ヴァイオリン)
日時:4月14日(火) 開演:19:00(開場18:30)

会場:①②平成館ラウンジ/③④⑤法隆寺宝物館エントランスホール
 料金:3,700円(全席自由)
 チケットのお求め方法:東京・春・音楽祭チケットサービス(ウェブサイト:
www.tokyo-harusai.com/ TEL:03-6743-1398)ほか
 主催・お問合せ:東京・春・音楽祭実行委員会(TEL:03-5205-6497)

総合文化展観覧料金の改定について

2020年4月1日より総合文化展観覧料金を改定します。
 詳細は15ページの東京国立博物館利用案内をご覧ください。

3月10日(火)、本館13室リニューアルオープン

昨年11月より展示環境改善工事を行っていた本館13室が、3月10日(火)リニューアルオープンします。展示ケースや照明などが新しくなり、作品がより綺麗に快適に鑑賞できるようになります。ぜひ本館13室に足をお運びください。

『冬木小袖』修理プロジェクトが始まります!

当館所蔵の「小袖 白綾地秋草模様」(通称「冬木小袖」)は、特別展「きもの KIMONO」(※詳細は本誌2ページ)で展示された後、本格的な修理を行うことになりました。当館と文化財活用センターでは「冬木小袖」や文化財の修理について紹介し、寄附を募るプロジェクトを始動します。

※ご寄附の受付

- ①文化財活用センターウェブサイト (<https://cpcp.nich.go.jp/fuyuki/>) クレジットカード決済または銀行振込で(1口1,000円~)。
- ②募金箱(本館1階11室脇、階段室)※2月18日開始予定
「冬木小袖」オリジナル折り紙コーナーを併設。ぜひお立ち寄りください。



◆桜の街の音楽会

- 「東京・春・音楽祭」参加アーティストによる無料ミニコンサート。(各20分程度)
- 4月2日(木) 10:30 ~ 正門前
Vive!サクソフォン・クワルテット(サクソ四重奏)
- 4月2日(木) 13:00 ~ 法隆寺宝物館エントランスホール
石井希衣(フルート)&岡本和也(ギター)
- 4月7日(火) 13:00 ~ 本館エントランス 大江馨(ヴァイオリン)

東京国立博物館賛助会員募集のご案内

博物館事業の充実のための支援制度です。

◎主な特典

特別展内覧会へのご招待 など

◎年会費

- 〈団体〉プレミアム会員 1,000万円以上
特別会員 100万円(1口) / 維持会員 20万円
- 〈個人〉プレミアム会員 100万円以上
特別会員 20万円 / 維持会員 5万円

◎申込方法

当館窓口、当館ウェブサイト(クレジットカード決済)、銀行振込

◎お問合せ

電話 03-3822-1111 (代) 総務課賛助会担当

東京国立博物館賛助会員 2019年12月4日現在

団体

特別会員 日本電設工業株式会社 様 株式会社 コア 様 大日本印刷株式会社 様 株式会社 毎日新聞社 様 株式会社 大林組 様 朝日新聞社 様 株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様 株式会社 ミロク情報サービス 様 読売新聞東京本社 様 三菱商事株式会社 様 凸版印刷株式会社 様 公益財団法人 東芝国際交流財団 様	日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社 様 日本ロレックス株式会社 様 サロン・ド・ソネット 様 TABIZURU FOUNDATION 様 株式会社 みずほ銀行 様 一般財団法人 東京国立博物館協力会 様 株式会社 東京書芸館 様 株式会社 三美テックス 様 キャンノン株式会社 様	維持会員 株式会社 三冷社 様 株式会社 東京美術 様 株式会社 鶴屋吉信 様 日本通運株式会社 美術品事業部 様 株式会社 安井建築設計事務所 様 株式会社 東洋建設株式会社 様 株式会社 ミュージアムスタイルカフェ 様 謙慎書道会 様 近代書道研究所 様 日本畜産興業株式会社 様 インフォコム株式会社 様 学校法人 大勝院学園 様 有限会社 システム設計 様	株式会社 インターネットイニシアティブ 様 株式会社 小西美術工芸社 様 有限会社 キャラリー竹柳堂 様 株式会社 育伸社 様 株式会社 モリサワ 様 アミ開発有限会社 名古屋支店 様 株式会社 清光社 様 株式会社 資生堂 様 株式会社 グラスパウダー・ジャパン 様 株式会社 デュナミス 様 キッコーマン株式会社 様 公益社団法人 創玄書道会 様 朝陽書道会 様 一般社団法人 書芸文化院 様	株式会社 精養軒 様 株式会社 都市環境企画 様 全日本空輸株式会社 様 株式会社 清光社 様 一般社団法人 学士会 様 公益財団法人 書道芸術院 様 アズビル株式会社 様 セコム株式会社 様 株式会社 ニッセイコム 様 金剛株式会社 様 株式会社 ロイスダール 様 株式会社 OIC ジャパン 様 公益財団法人 アダチ伝統木版画技術保存財団 様	エクスロン・インターナショナル株式会社 様 正筆会 様 はごろもフーズ株式会社 様 有限会社 くかんパニー 様 株式会社 目の眼 様 株式会社 前田酒店 様 株式会社 サザンプランニング 様 株式会社 ナガホリ 様 株式会社 ジェイ・フィールド 様 東京書籍株式会社 様 株式会社 シンメイ 様 株式会社 内外出版社 様
--	---	---	---	---	---

個人

プレミアム会員 井茂圭河 様 黒田賢一 様 岩間良孝 様 特別会員 永久幸範 様 辻泰二 様 佐久間基晴 様 井田悦郎 様 大山孝良 様 田中三伊 様 田中御津子 様 増山育男 様 島田仁 様 久保和子 様 山本俊祐 様 維持会員 伊藤信彦 様 数内匡人 様 岩沢重美 様 高田朝子 様 神通豊 様 齋藤邦裕 様 和田美幸子 様 藤原紀男 様 関谷徳衛 様 高橋守 様 小澤桂一 様 玉野のり子 様 榎田良豊 様 長谷川英樹 様	池田孝一 様 木村剛 様 観世あすか 様 星望由尚 様 渡辺章 様 稲垣哲行 様 飯岡雄一 様 高瀬正樹 様 寺浦信之 様 高木美華子 様 吉原知良 様 古屋光夫 様 根田喜弘 様 松本澄子 様 池嶋洋次 様 是常博 様 上野孝一 様 栗田陸子 様 絹村安代 様 白井生三 様 津久井秀郎 様 神通豊 様 神通豊一 様 石川公子 様 永田美香 様 西岡康宏 様 友景紀子 様 東野治之 様 竹下佳宏 様 野澤智子 様 坂田浩一 様 池谷正夫 様	木谷馴巳 様 渡久地ツル子 様 汐崎浩正 様 飯田敬子 様 平井千恵子 様 青山道夫 様 小西伸也 様 田中望 様 三井速雄 様 坂田貴子 様 吉田靖 様 松本雅彦 様 篠山弘 様 片山正紀 様 伊藤喜雄 様 鈴木伸一 様 鈴木幸一 様 秋元文子 様 土師詔三 様 鏡賢志 様 野口圭也 様 渡邊雪絵 様 佐藤謙一 様 谷川紀彦 様 山口隆司 様 原一之 様 相良多志 様 鈴木徹 様 今里美幸 様 楠富久美 様 野澤智子 様 伊佐健二 様 軽部由香 様	木越純 様 井上保 様 田中信 様 岡崎子 様 古川晴紀 様 新関日出夫 様 岩本光雄 様 山本隆幸 様 山上知子 様 林和人 様 清水透石 様 野本陽代 様 佐藤美蓉 様 青山慶一 様 堀口順一 様 吉永喜代子 様 竹原鈴子 様 高山真行 様 鈴木深泉 様 今村正 様 福武正廣 様 堀川佳津美 様 岡野一昭 様 伊藤彰信 様 小林浩和 様 加藤正叙 様 蔵口真理 様 宮下雅博 様 田代雅彦 様 高橋義一 様 清田志郎 様 中村光宏 様 中島米治 様	神田靖男 様 森本晃生 様 石飛博光 様 清原真里 様 角田保行 様 三浦基広 様 金光真佐一 様 水野和良 様 竹内明世 様 平田泰之 様 武井伸之 様 羽石史生 様 長瀬正行 様 前田寿子 様 笠原勉 様 黒河英俊 様 北瀬敏章 様 北原俊也 様 高見康雄 様 岩本みち子 様 堀川佳津美 様 瀬本篤 様 秋元孝雄 様 中山安弘 様 鈴木健之 様 木村則子 様 水田涉子 様 吉原剛一 様 本吉文夫 様 重田綾子 様 五嶋滋之 様 笹川純 様	岩佐恵子 様 向山裕子 様 田中真知子 様 高田明 様 根岸順 様 小野透 様 竹中洋介 様 脇泰一郎 様 本條陽子 様 福井一夫 様 石井勝世 様 山神栄司 様 長井真理 様 島谷桂子 様 森本文子 様 青木勝重 様 牧裕子 様 南佳菜子 様 沖斗南 様 北爪由紀夫 様 伊藤隆 様 岡藤寛幸 様 山見勝彦 様 庄司浩 様 大貫健司 様 石井延隆 様 佐々木裕明 様 館谷舞 様 清水延美 様 横田泰三 様 和田文彦 様 加田知佳乃 様	北山卓 様 荒井淳子 様 伊藤達次郎 様 田原喬子 様 大山仁 様 小田周平 様 田島ヨシ江 様 沼尻昭様 志田嘉 様 本保順子 様 佐藤はるみ 様 面田大介 様 佐藤美昭 様 三上昌宏 様 近藤雅美 様 柴田啓一 様 箕田好文 様 瀧本靖子 様 大類泰郎 様 櫻井めぐみ 様 若井順一 様 菊池伸彦 様 牧野友樹 様 藤本久子 様 青木香織 様 染谷克人 様 伊藤翔司 様 平井智香 様 田中久仁恵 様 高橋康之 様 山崎進 様 横山峻 様 小山美知子 様	伊賀浩一 様 神田裕子 様 藤谷康男 様 大西史子 様 菅原史詠 様 渡瀬洋子 様 本澤昌宏 様 荒木駿 様 加治啓子 様 鈴木智子 様 大久保慎一 様 金子勝廣 様 石井利行 様 古家勉一 様 杉葉桂子 様 近藤恵利加 様 神長克一 様 津澤美紗 様 西村卯 様 柴田和久 様 前田博 様 前田陽子 様 川島和孝 様 田中慶一 様 前田裕一 様 梶原泉 様 吉澤央人 様 青木裕子 様 西内馨子 様 河内重人 様 荒木理江 様	佐藤真希 様 鈴木章弘 様 藤村由貴子 様 石井千明 様 大島千秋 様 西倉美奈 様 安藤佳幸 様 横山隆吉 様 杉森光子 様 新井公之 様 菅原朋子 様 金子真理奈 様 日哲治 様 佐藤真 様 数本俊一 様 数本英子 様 数本基子 様 名取二郎 様 星野文仁 様 宮村久美 様 長瀬俊泰 様 福田美知子 様 菅原敏司 様 藤原昂平 様 文屋祝男 様 深谷久美子 様 飯田太志 様 福田倫子 様 大宮淳恵 様 二宮淳 様 ほかに220名、 2社、順不同 11/31 現在
--	---	---	---	--	--	---	--	---



「JOMON」がつなぐ文化交流

—昨年、パリ日本文化会館で開催された「縄文—日本における美の誕生」展(2018年10月17日～12月8日)。パリでの縄文展は20年ぶり、2回目の開催となりました。20年前、街の至る所に縄文展のポスターが貼られ、展覧会は大盛況。会場では5000年前の造形に対し、「これがそんなに古いはずはない。あなたの年代観は一桁間違っていない？」と詰問する来館者もいらっしゃいました。その時、「JOMON」がフランス語になりました。あれから20年。縄文人の豊かな感性と彼らが生み出した力強い造形美は、感性豊かなフランス人の心を再び奪ったようです。「JOMON」、さて次は、どの国の人びとの感性をくすぐるのだろうか。



君もいろんな国をまわっているね

(副館長・井上洋一)

第61回全国カタログ展で文部科学大臣賞を受賞

当館で昨年開催した特別展「顔真卿」の図録が「第61回全国カタログ展」の「図録部門」で文部科学大臣賞を受賞しました。

特別展チケットプレゼント

特別展「きもの KIMONO」(4月14日(火)～6月7日(日)→2ページ) 無料観覧券(10組20名様)をプレゼントします。締切は4月10日(金)必着。

＊プレゼントの応募方法：はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。
〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館 広報室「ニュース2-3月号」プレゼント係

東京国立博物館×東京・春・音楽祭 夜の音めぐり～桜の街の音楽会スペシャル

夜のトーハクを「東京・春・音楽祭」参加アーティストの織り成す音色で彩ります。
日時:3月6日(金) *各回15分程度
16:00～ 正門前 VIVE!サクソフォン・クワルテット(サクソ四重奏)
16:40～ 東洋館1室 林はるか(チェロ)
17:30～ 本館エントランス 齊藤健太(サクソ)
18:30～ 平成館ラウンジ 豊永美恵、林裕子、左藤博之(クラリネット三重奏)
19:30～ 法隆寺宝物館 石崎諒子(ヴァイオリン)&林はるか(チェロ)
料金:無料(ただし、当日の入館料が必要)
主催・お問合せ:東京・春・音楽祭実行委員会(TEL:03-5205-6497)

『MUSEUM』683号(2019年12月15日発行)の掲載論文

①「『研究ノート』奈良県松山古墳出土鉄鏡の再検討」
河野一隆・河野正訓・山本亮・荒木臣紀・宮田将寛(以上、東京国立博物館)
②「『研究ノート』東京国立博物館所蔵の如意輪観音菩薩坐像と檀像表現」
西木政統(文化財活用センター・東京国立博物館)
③「『資料紹介』永青文庫所蔵 早崎榎吉筆「造像所獲記」」
石松日奈子(清泉女子大学・東京国立博物館客員研究員)
お問合せ:当館ミュージアムショップまたは
中央公論事業出版(TEL:03-5244-5723)
定価:1,572円(税込)

TNM & TOPPANミュージアムシアター

VR作品『色絵月梅図茶壺・八橋蒔絵螺鈿硯箱』1月2日(木)～3月8日(日)
仁清の重要文化財「色絵月梅図茶壺」、そして尾形光琳作の国宝「八橋蒔絵螺鈿硯箱」は、いずれも江戸時代につくられた日本を代表する工芸品です。本作品では、この2つの名品をバーチャルリアリティならではの方法で鑑賞します。細部を拡大して見たり、作品を「内側」から見て、名工が作り出した美の世界を体感。日本が誇る名宝の美しさをミュージアムシアターでご堪能ください。
料金:一般・大学生・高校生500円、小学生・中学生300円、未就学児、障がい者とその介護者1名は無料(1作品/1回あたり)
*総合文化展とセット購入で一般:1,000円/大学生800円
*所要時間は約35分です。鑑賞には当日の予約が必要です。
*演目・スケジュールは都合により変更になる場合があります。
*詳細はウェブサイト(<http://www.toppan-vr.jp/mt/>)をご覧ください。

東京国立博物館利用案内

開館時間:

9:30～17:00(入館は閉館の30分前まで)
●金・土曜日は21:00まで
●いずれの場合も黒田記念館は17:00まで

休館日:

月曜日(祝・休日に当たる場合は開館、翌平日は休館)
●3月30日(月)は開館
*特別展等の開催に伴い、開館時間及び休館日は変更になることがあります。

総合文化展観覧料金:

一般=620(520)円 大学生=410(310)円
●()内は20名以上の団体料金
●障がい者とその介護者1名は無料。満70歳以上、高校生以下および18歳未満の方は無料

※2020年4月1日より料金が改定となります

一般=1,000円 大学生=500円

●20名以上の団体料金は廃止となります
●障がい者とその介護者1名は無料。満70歳以上、高校生以下および18歳未満の方は無料

詳細は東京国立博物館ウェブサイトをご覧ください。

最新情報は、
ウェブサイト、Facebook、Twitter、
Instagram、メールマガジンで!

東京国立博物館ウェブサイト
<https://www.tnm.jp/>

東京国立博物館会員制度

東京国立博物館では、皆様のニーズに合わせて各種会員制度をご用意しております。

友の会

発行日から1年間有効 年会費 8,000円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展観覧券を6枚と、本誌の定期購読、ショップ、レストラン割引等さまざまな特典があります。

メンバーズプレミアムパス

発行日から1年間有効
年会費 一般5,000円、学生3,500円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展観覧券を4枚提供します。

国立博物館メンバーズパス(4館共通)

発行日から1年間有効
年会費 一般2,000円、学生1,000円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。

ニュース会員

東京国立博物館ニュースの定期購読
年会費 1,000円(1年分)

【特典】東京国立博物館ニュースを1年分ご自宅に送付いたします。メンバーズプレミアムパスとの同時申込みで100円割引。(2020年6月より年4回発行となります。)

*次号よりご送付希望の場合、締切は2020年3月10日(火)です。

○申込方法

1. 会員専用窓口

当館正門前の会員専用窓口で即日発行いたします(現金またはクレジットカード)。

2. ウェブサイト

専用申込フォームからお申込みください(クレジットカードまたは郵便振替(振替用紙を送付))。

3. 郵便振替

●振替用紙に①種別(友の会、プレミアムパス、4館共通、ニュース)、②区分(一般、学生)③氏名(ふりがな)、④郵便番号、⑤住所、⑥電話番号、⑦年齢、⑧性別、⑨メールアドレス(メールマガジン希望者のみ)を通信欄にご記入の上、下記口座までお振替ください。
加入者名:東京国立博物館会員制度
口座番号:00140-3-791791

●振込用紙の半券が領収書になります。有効期限終了まで保管してください。

●振替手数料はおお客様負担となります。

●ご入金確認日より会員証等がお手元に届くまで2週間程度かかります。

*一度納められた料金の払い戻しはいたしません。
*お申込みの際にご提供いただいた個人情報は、当該目的のみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

◎お問合せ

電話 03-3822-1111(代) 総務課会員制度担当

*月曜～金曜日の9:30～17:00(土・日・祝休日は除く)

FAX 03-3821-9680

1 上	夜間開館(21:00まで) 藝「十二月花鳥図屏風」の魅力15:30 本館7室 櫛11:00 本14:00 特別展「ザ・アール・サーニ・コレクション」 特別展「出雲と大和」
2 日	藝「雪村の『廬山水図屏風』の画面構成について」15:30 本館3室 作13:30 考14:30
3 月	休館日
4 火	G「文徴明と明時代の書画」14:00 東洋館8室 藝「宝慶寺石仏龕のかたちとその意味」15:30 東洋館1室 庭11:00
5 水	藝「『子日時絵棚』にみる光悦の意匠」15:30 本館12室
6 木	藝「『十二月花鳥図屏風』の魅力」15:30 本館7室 東11:00
7 金	夜間開館(21:00まで) 法15:00
8 土	夜間開館(21:00まで) 講「文徴明とその時代」13:30 平成館大講堂 藝「宝慶寺石仏龕のかたちとその意味」15:30 東洋館1室 陶14:30
9 日	藝「『十二月花鳥図屏風』の魅力」15:30 本館7室 近13:00 浮14:00 彫15:00
10 月	休館日
11 火・祝	
12 水	藝「宝慶寺石仏龕のかたちとその意味」15:30 東洋館1室 文化の杜の音めぐり13:00 本館大階段 ¹ 託児サービス無料デー(10:30~16:00)
13 木	藝「ヴィンチェンツォ・ラグーザの『日本の婦人像』」15:30 本館18室 庭11:00 託児サービス無料デー(10:30~16:00)
14 金	夜間開館(21:00まで) 藝「宮川香山と明治の『日本』」15:30 本館18室 英14:00
15 土	夜間開館(21:00まで) 庭11:00 本14:00 法15:00
16 日	藝「宮川香山と明治の『日本』」15:30 本館18室 東11:00 英14:00 考14:30
17 月	休館日
18 火	G「帝室技芸員 三代清風与平」14:00 本館18室 藝「ヴィンチェンツォ・ラグーザの『日本の婦人像』」15:30 本館18室
19 水	藝「宮川香山と明治の『日本』」15:30 本館18室
20 木	藝「ヴィンチェンツォ・ラグーザの『日本の婦人像』」15:30 本館18室
21 金	夜間開館(21:00まで) 藝「『子日時絵棚』にみる光悦の意匠」15:30 本館12室 櫛11:00
22 土	夜間開館(21:00まで) 講「東アジアの宮廷文化」13:30 平成館大講堂 刀13:30
23 日・祝	藝「宮川香山と明治の『日本』」15:30 本館18室 彫15:00
24 月・休	
25 火	休館日
26 水	藝「『子日時絵棚』にみる光悦の意匠」15:30 本館12室
27 木	藝「ヴィンチェンツォ・ラグーザの『日本の婦人像』」15:30 本館18室 本14:00
28 金	夜間開館(21:00まで) G「江戸の書にみる人情」18:30 本館8室 藝「青木繁が描きだした神話画『日本武尊』」15:30 本館18室
29 土	夜間開館(21:00まで) W「ひいな遊び—立雛を作ろう!—」 10:00、14:00 本館地下みどりのライオン(教育普及スペース)*2

1 日	藝「青木繁が描きだした神話画『日本武尊』」15:30 本館18室 考14:30
2 月	休館日
3 火	藝「青木繁が描きだした神話画『日本武尊』」15:30 本館18室 庭11:00
4 水	藝「宮川香山と明治の『日本』」15:30 本館18室
5 木	藝「『子日時絵棚』にみる光悦の意匠」15:30 本館12室 東11:00
6 金	夜間開館(21:00まで) 法15:00 ♪夜の音めぐり 16:00、16:40、17:30、18:30、19:30*3
7 土	夜間開館(21:00まで) 講「裝飾古墳の人類史」13:30 平成館大講堂 藝「宮川香山と明治の『日本』」15:30 本館18室 櫛11:00 本14:00
8 日	藝「青木繁が描きだした神話画『日本武尊』」15:30 本館18室 近13:00 浮14:00 彫15:00
9 月	休館日
10 火	藝「『子日時絵棚』にみる光悦の意匠」15:30 本館12室 特別展「日本の伝統芸能」 博物館でお花見を 春の庭園開放
11 水	
12 木	藝「青木繁が描きだした神話画『日本武尊』」15:30 本館18室 庭11:00
13 金	夜間開館(21:00まで) 特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」 英14:00
14 土	夜間開館(21:00まで)
15 日	東11:00 茶11:00、13:00 英14:00 考14:30
16 月	休館日
17 火	G「器に咲く桜」14:00 本館地下みどりのライオン(教育普及スペース) ♪東博でパッパvol.47 19:00 平成館ラウンジ*4
18 水	
19 木	庭11:00*5
20 金・祝	夜間開館(21:00まで) 櫛11:00
21 土	夜間開館(21:00まで) 【金堂壁画】講「法隆寺金堂壁画と写した人々」13:30 平成館大講堂 庭11:00 本14:00 法15:00 ♪東博でパッパvol.48 18:00 平成館ラウンジ*4
22 日	彫15:00
23 月	休館日
24 火	G「仏教絵画に描かれた桜」14:00 本館地下みどりのライオン(教育普及スペース) ♪東博でパッパvol.49 19:00 法隆寺宝物館エントランス*4 特別企画「敦煌」
25 水	
26 木	本14:00
27 金	夜間開館(21:00まで) バックヤードツアー「保存と修理の現場へ行こう」14:00*6 W「桜めぐりえ」11:00~16:00 本館2階ラウンジ
28 土	夜間開館(21:00まで) 【金堂壁画】講「百済観音の世界」13:30 平成館大講堂 本11:00 作13:30*5 刀13:30 陶14:30 W「桜めぐりえ」11:00~16:00 本館2階ラウンジ
29 日	東11:00 茶11:00、13:00*5 彫12:00 考13:00 浮14:00 法15:00 W「桜めぐりえ」11:00~16:00 本館2階ラウンジ
30 月	特別開館 W「桜めぐりえ」11:00~16:00 本館2階ラウンジ
31 火	桜鑑賞ガイド14:00 本館地下みどりのライオン(教育普及スペース) W「桜めぐりえ」11:00~16:00 本館2階ラウンジ (5/10まで)(5/10まで)(4/19まで)(4/5まで)(5/24まで)

【金堂壁画】=特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」関連事業。(3/21は締め切りました)

★=「博物館でお花見を」関連事業(→13ページ)

*1 詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。*2 事前申込制。詳細は12ページ

*3 詳細は15ページ *4 事前申込制。詳細は14ページ *5 事前申込制。詳細は13ページ

*6 事前申込制。申込みは締め切りました

講 = 月例講演会等、詳細は本誌12ページ(特別展関連事業→2ページ)

G = ギャラリートーク、詳細は本誌12ページ

W = ワークショップ、詳細は本誌12-13ページ

👶 = 託児サービス実施日(12:30~15:30) 事前予約制 有料

作 = ボランティアによるアートスタジオ 事前申込制 詳細は本誌13ページ

*2/2は締め切りました

本 = ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所:本館2階1室入口

浮 = ボランティアによる浮世絵ガイド、集合場所:本館10室

陶 = ボランティアによる陶磁ガイド、集合場所:2/8は本館4室、3/28は本館13室

彫 = ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所:本館11室

櫛 = ボランティアによる樹木ツアー、集合場所:本館玄関

考 = ボランティアによる考古展示室ガイド、集合場所:平成館考古展示室入口

法 = ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、集合場所:法隆寺宝物館1階エントランス

茶 = ボランティアによる応挙館での茶会(2月は休止します)、整理券配布場所:本館1階エントランス(9:30から整理券配布、参加費500円、各回先着15名)※3/29は事前申込制、詳細は本誌13ページ

庭 = ボランティアによる庭園茶室ツアー、整理券配布場所:本館1階エントランス(9:30から整理券配布、先着18名)※3/19は事前申込制、詳細は本誌13ページ

英 = ボランティアによる英語ガイド(日本美術の流れ)、集合場所:本館2階1室入口

東 = ボランティアによるたてもの散歩ツアー、集合場所:本館玄関

近 = ボランティアによる近代の美術ガイド、集合場所:本館18室

刀 = ボランティアによる刀剣・武士の装いツアー、集合場所:本館2階1室入口

東 = ボランティアによる東洋館ツアー、集合場所:東洋館1階エントランス(2-3月は「東洋館ハイライトツアー」をご案内します。ただし、3/29はお花見関連ガイドになります。)

藝 = 東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートーク。詳細は本誌12ページ

*屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります